



ブータンにおける学校教育の歴史的変遷 —学校教育100年史—

第33回雲南懇話会

2015年6月27日（土）

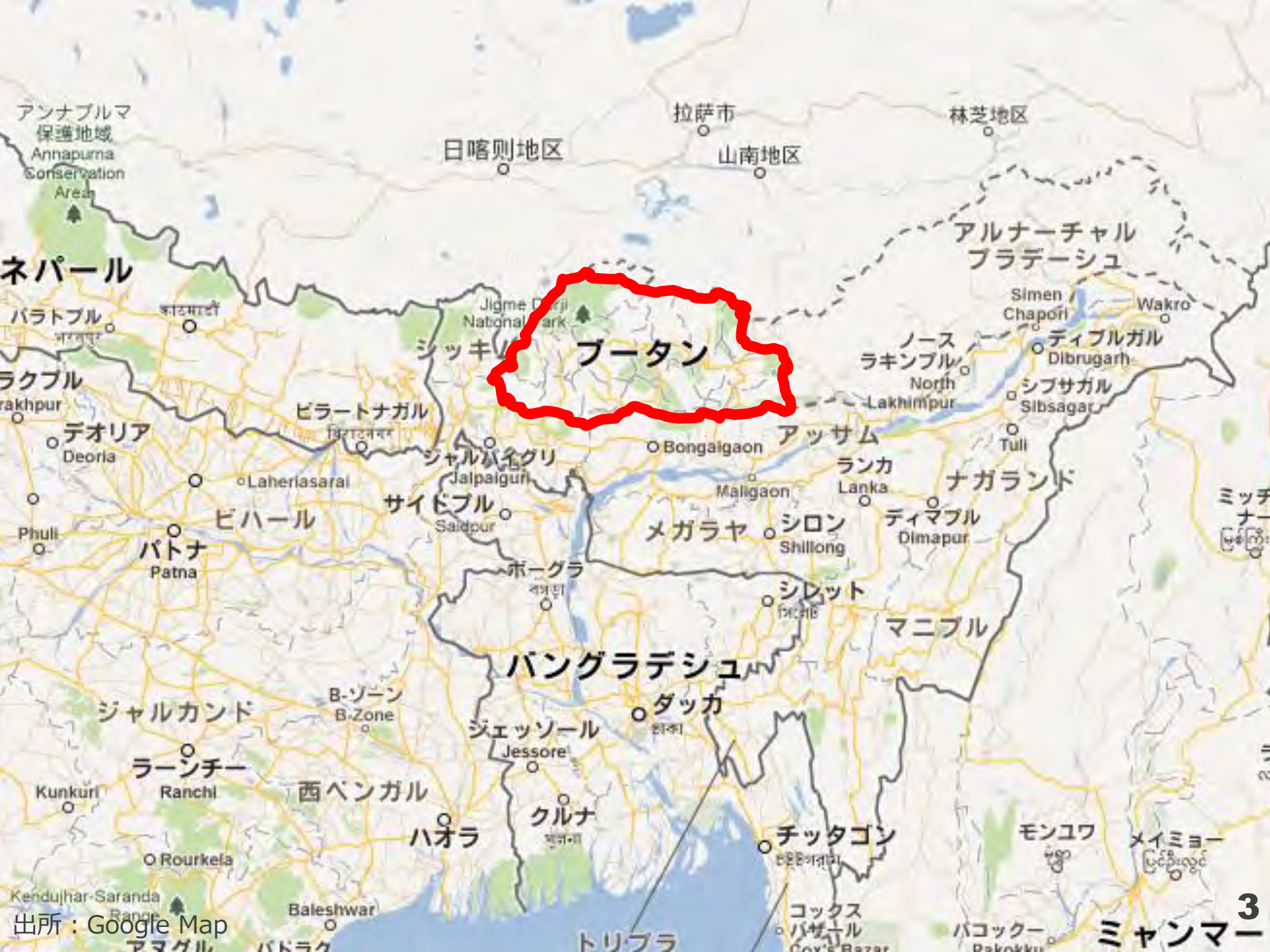
14:00～14:40

於：JICA研究所 国際会議場

平山 雄大
早稲田大学教育総合研究所 助手



1. ボータンの概要



アンナブルマ
保護地域
Annapurna
Conservation
Area

ネパール

バラトブル
Bharatpur

ラクブル
Rakpur

デオリア
Deoria

Phuli

パトナ
Patna

ビハール

ジャルカンド

ラーンチー
Ranchi

Kunkuri

Rourkela

Kendujhar-Saranda
Range

出所: Google Map

カトマंडー

シッキム
Sikkim

デオリア
Deoria

Phuli

パトナ
Patna

ビハール

ジャルカンド

ラーンチー
Ranchi

Kunkuri

Rourkela

Kendujhar-Saranda
Range

カトマंडー

シッキム
Sikkim

デオリア
Deoria

Phuli

パトナ
Patna

ビハール

ジャルカンド

ラーンチー
Ranchi

Kunkuri

Rourkela

Kendujhar-Saranda
Range

カトマंडー

シッキム
Sikkim

デオリア
Deoria

Phuli

パトナ
Patna

ビハール

ジャルカンド

ラーンチー
Ranchi

Kunkuri

Rourkela

Kendujhar-Saranda
Range

カトマंडー

シッキム
Sikkim

デオリア
Deoria

Phuli

パトナ
Patna

ビハール

ジャルカンド

ラーンチー
Ranchi

Kunkuri

Rourkela

Kendujhar-Saranda
Range

カトマंडー

シッキム
Sikkim

デオリア
Deoria

Phuli

パトナ
Patna

ビハール

ジャルカンド

ラーンチー
Ranchi

Kunkuri

Rourkela

Kendujhar-Saranda
Range

カトマंडー

シッキム
Sikkim

デオリア
Deoria

Phuli

パトナ
Patna

ビハール

ジャルカンド

ラーンチー
Ranchi

Kunkuri

Rourkela

Kendujhar-Saranda
Range

カトマंडー

シッキム
Sikkim

デオリア
Deoria

Phuli

パトナ
Patna

ビハール

ジャルカンド

ラーンチー
Ranchi

Kunkuri

Rourkela

Kendujhar-Saranda
Range

カトマंडー

シッキム
Sikkim

デオリア
Deoria

Phuli

パトナ
Patna

ビハール

ジャルカンド

ラーンチー
Ranchi

Kunkuri

Rourkela

Kendujhar-Saranda
Range

カトマंडー

シッキム
Sikkim

デオリア
Deoria

Phuli

パトナ
Patna

ビハール

ジャルカンド

ラーンチー
Ranchi

Kunkuri

Rourkela

Kendujhar-Saranda
Range

日喀則地区

拉萨市

山南地区

林芝地区

アルナーチャル
プラデーシュ

Simen
Chapori

Wakro

ディブルガル
Dibrugarh

シブサガル
Sibsagar

Tuli

アッサム

ランカ
Lanka

ナガランド

ディマプル
Dimapur

メガラヤ

シロン
Shillong

シレット
Shillong

マニプル

バングラデシュ

ダッカ
Dhaka

ジェッソール
Jessore

ハオラ

クルナ
Karna

チッタゴン
Chittagong

モンユフ
Monyuf

メイミョー
Meimyo

バコッカー
Bakokkar

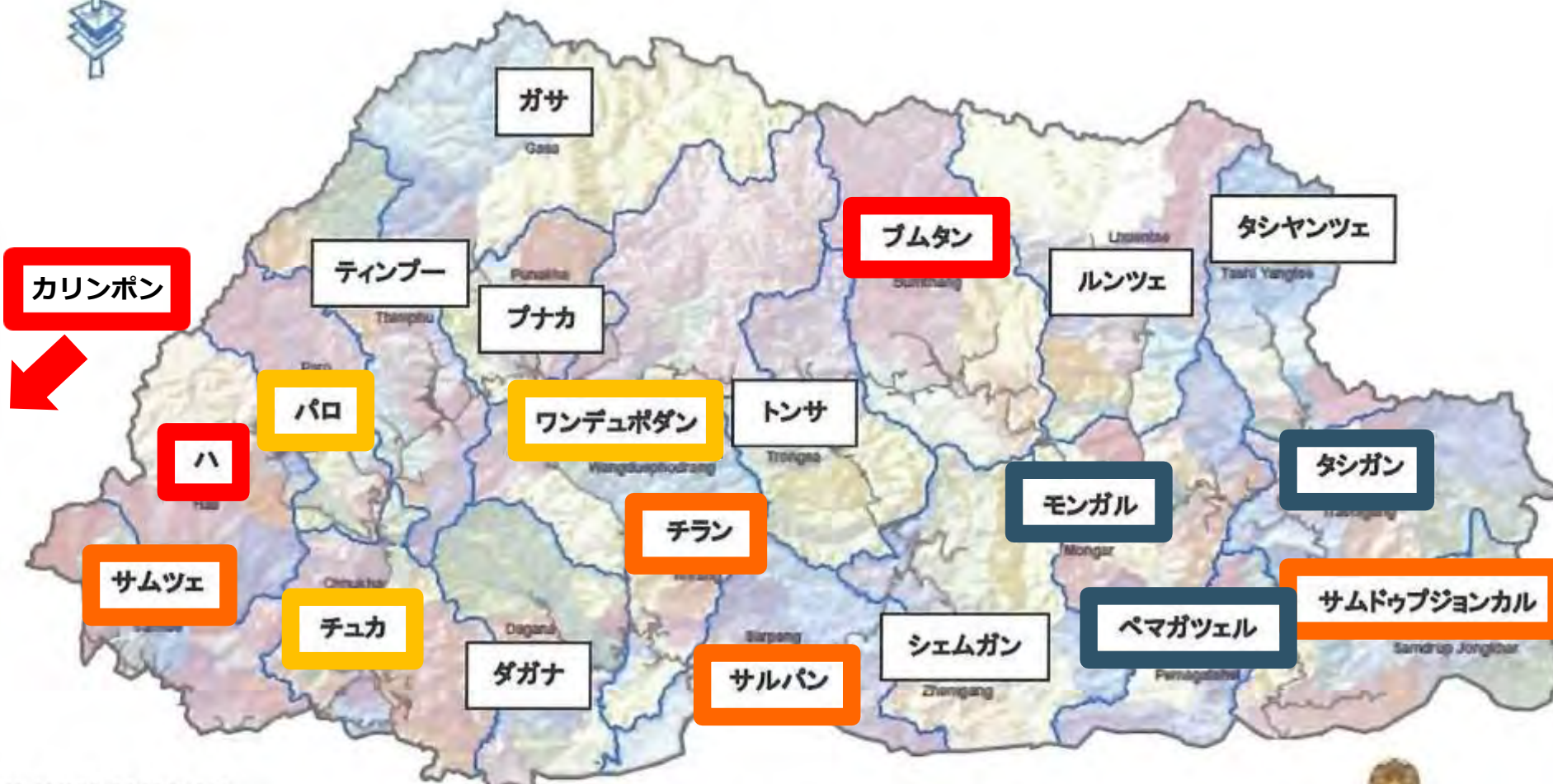
コックス
Cox's
Bazar

トリプラ

ミャンマー

3

BHUTAN MAP



HIGHWAY ROAD

Scale:1:860,000

50,000 25,000 0 50,000 Meters



National Statistics Bureau

基本情報

- 国名

ブータン王国 (Kingdom of Bhutan) /
ドゥク・ユル (Druk Yul)

- 面積*

3万8,394km²

- 人口*

74万5,153人 (2014年)

- 首都

ティンブー (Thimphu)

- 宗教 ⇒ チベット仏教国

チベット仏教カギュ派ドゥク派、同ニンマ派、ヒンドゥー教他

- 民族 ⇒ 多民族国家

ツアンラ (シャーチョツパ)、ンガロップ、ローツァンパ、
ラヤツパ、ブロクパ他



■ **言語 ⇒ 多言語国家**

母語：ツァンラカ、ゾンカ、ローツァンカ（ネパール語）他

国語：ゾンカ

※ 学校教育の教授言語は英語（1964年～）

■ **政治形態 ⇒ 君主制100年（1907年～）**

立憲君主制 = 議会制民主主義体制（2008年～）

■ **元首（2006年～）**

ジグメ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク

■ **首相（2013年～） ※第2回国民議会選挙（2013年7月13日）**

ツェリン・トプゲ

■ **1人あたりGDP***

2,729US\$（2014年）



2. 学校教育の歴史

※ 僧院教育＝

チベット仏教の僧侶となるために必要な素養の教育



※ 学校教育＝

ブータンの近代化を担う人材の養成

当初は少数精鋭のエリート教育

後には国民的教育制度の成立・普及を目指した大衆教育

ブータン近現代史 + 学校教育史

年	出来事	年	出来事
1907	初代国王即位 ブータン王国建国	1971	国際連合加盟 計画委員会設置
1910	プナカ条約調印	1972	第4代国王即位
1914?	46人の男子がカリンポンに留学 ハに学校開校 【学校教育開始】	1974	一般観光旅行者受入開始
1915?	ブムタンに学校開校	1975	パロに教員養成校開校
1926	第2代国王即位	1976	シェラブツェ・カレッジ開校
1949	インド・ブータン条約調印	1985	SAARC加盟
1952	第3代国王即位	1986	NAPEプログラム導入 「環境教育」科設置
1953	国民議会設置	1989	南部におけるネパール語の授業廃止
1961	第1次5カ年計画開始 国語にゾンカを制定	1999	テレビ放送開始 インターネット導入 「価値教育」科設置
1962	コロンボ計画加盟	2006	第4代国王退位 第5代国王即位
1964	教授言語を英語に変更（南部ではゾンカ の代わりにネパール語の授業を容認）	2007	インド・ブータン条約改定
1965	ティンブー・パブリック・スクール開校	2008	第1回国民議会選挙 憲法公布
1968	カンルン・パブリック・スクール開校 サムツェに教員養成校開校	2010	「GNH教育」導入
		2013	第2回国民議会選挙

➡ **【黎明期】（1910年代～）**

少数精鋭のエリート教育

➡ **【草創期】（1940年代～）**

一般に開かれた学校教育

➡ **【拡充期①】（1960年代～）**

本格的な学校教育の拡充

➡ **【拡充期②】（1980年代～）**

独自性模索、教育のブータン化

【黎明期】（1910年代～）

■ ハの学校

カリンポンに留学した男子に、夏に補講を行う場

1914年？ 第1期生入学

1926年？ 第2期生入学

■ ブムタンの学校

王族の季節移動に伴って場所を変える移動式の学校

1915年？ 第1期生入学

1923年？ 第2期生入学

1930年？ 第3期生入学



H. D.
プラダン

ソナム・
トプゲ・
ドルジ

「ハの学校」第1期生 = カリンポンに留学した男子

留学先は？

Dr. Graham's Homes ?
(1900年～)



Very Rev. Dr. J. A. Graham



Sri H. D. Pradhan
(1918—1929)

ドクター・グラハム

ウゲン・ドルジ

ドクター・サザーランド
H. D. プラダン

タシ・
ツェリン

ド・ティンレ・
ブーティア

1924

ベンチュン・
ブーティア

ギヤム・
ドルジ・
ブーティ
ア(?)

ギヤム・
ドルジ・
ブーティ
ア(?)

ブンツォ・
カルチュン・ブーティア

ピチ・
ブーティ
ア

H. D.
プラダン

**「ハの学校」第1期生はカリンポンを拠点に勉学を続けた後、
英領インド各地にて勉強・修行・訓練 ⇒ 1920年代以降帰国**

■ **デヘラードゥーン**

Forest Research Institute and College （森林保護官）

Geographic Branch, Survey of India （測量技師）

■ **カルカッタ**

Campbell Medical School （外科助手）

Bengal Engineering College （エンジニア）

■ **バーガルプル**

Teacher Training College （教師）

■ **シブプール**

Bengal Veterinary College （獣医）

■ **カンプール**

Harness and Saddlary Factory （なめし皮業）

■ **シロン** （軍隊）

■ **パラミュ** （ラック養殖）

1922

第2代国王
(?)

「ブムタンの学校」第1期生

【草創期】（1940年代～）

ネパール人移住者の学校

- 1940年代後半～
- 南部地域
- 地域住民主導
- 小規模の私立学校
- 教授言語：ヒンディー語、ネパール語
- 教員：インド人、ネパール人

「下からの学校教育の普及」

ブータン人の学校

- 1950年代前半～
- 全土
- 地方行政官主導
- 比較的大規模の公立学校
- 教授言語：基本的にヒンディー語、一部英語
- 教員：ブータン人

「上からの学校教育の普及」



1931



1933





出所 : Om Pradhan / Tashi P. Wangdi (ed.) (2012) *Bhutan: The Roar of the Thunder Dragon*, Thimphu: K Media.

1951



出所 : Todd, Burt Kerr (1952) "Bhutan, Land of the Thunder Dragon", *The National Geographic Magazine*, Vol.102 No.6, pp.713-754.

1951



出所 : Todd, Burt Kerr (1952) "Bhutan, Land of the Thunder Dragon", *The National Geographic Magazine*, Vol.102 No.6, pp.713-754.

1954



出所 : Stewart, Natalie H. & Todd, Susie & Stewart, Frances Todd / The National Steering Committee for the Coronation, Ministry of Home and Culture (eds.) (2008) *Class of '56*, Thimphu: Voluntary Artists' Studio, Thimphu (VAST).



出所 : Yurung Lower Secondary School (2009) *Golden Jubilee 1959-2009*, Pema Gatshel: Yurung LSS.

【拡充期①】（1960年代～）

- **5カ年計画に沿った教育開発**

本格的な学校教育の拡充

- **教授言語を英語に変更**

「インドをはじめとした諸外国で医学や工学等の教育を受ける際に最も都合の良い言語」*

- **手厚い留学支援体制 ⇒ 脱却を目指す（1970年代～）**

- **国内での人材育成に向けた各学校の整備**

パブリック・スクール、教員養成校、技術学校…

5カ年計画の変遷

	策定年	名称	実施期間	特徴
インド時代 ↓	1961年	第1次5カ年計画	1961-1966年	インドの5カ年計画のツギハギ インド政府の強い後押しと全面的な財政支援
	1966年	第2次5カ年計画	1966-1971年	
暗中模索時代 ↓	1971年	第3次5カ年計画	1971-1976年	計画委員会設置 ⇒ ブータン政府の主体性の獲得を目指す 国際機関からの援助受入開始
	1976年	第4次5カ年計画	1976-1981年	
独自性推進時代 ↓	1981年	第5次5カ年計画	1981-1987年	目標に「経済的自立の達成」 「地方分権化の促進」強調
	1987年	第6次5カ年計画	1987-1992年	目標に「ナショナル・アイデンティティの保護・促進」
	1991年	第7次5カ年計画	1992-1997年	国際機関寄りの姿勢を明確化 ⇒ 「持続可能性」、「環境と持続可能な開発」強調
GNH時代 ↓	1996年	第8次5カ年計画	1997-2002年	「GNH」の文言登場
	2002年	第9次5カ年計画	2002-2007年	国家開発目標として「GNHの最大化」提示 「主要な柱としての4つの重点領域」提示
	2007年	第10次5カ年計画	2008-2013年	憲法に則し「GNHの最大化・実現」を目指す
	2013年	第11次5カ年計画	2013-2018年	全体目標に「自立し、包括的で環境にやさしい社会経済開発」

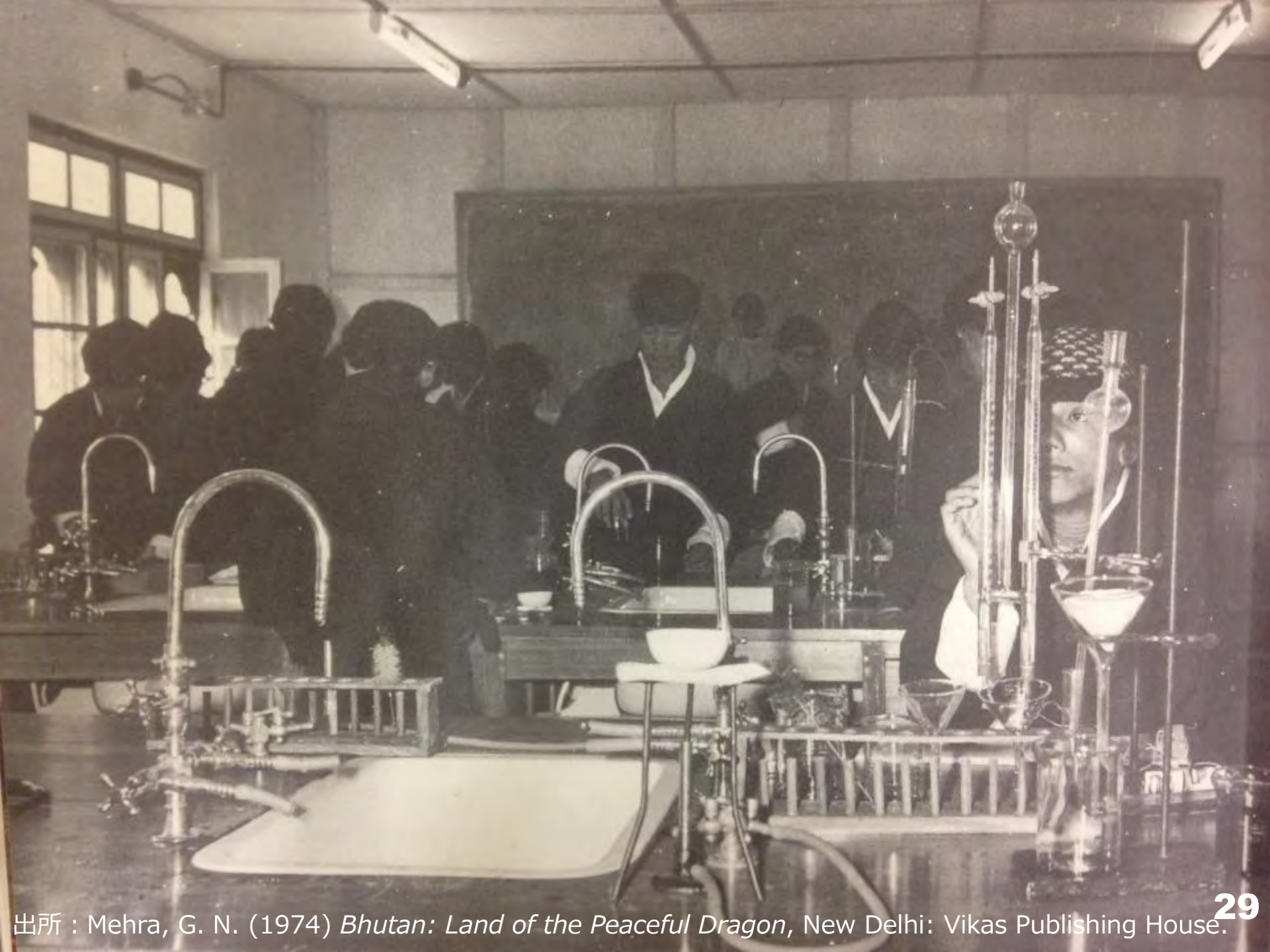
1962

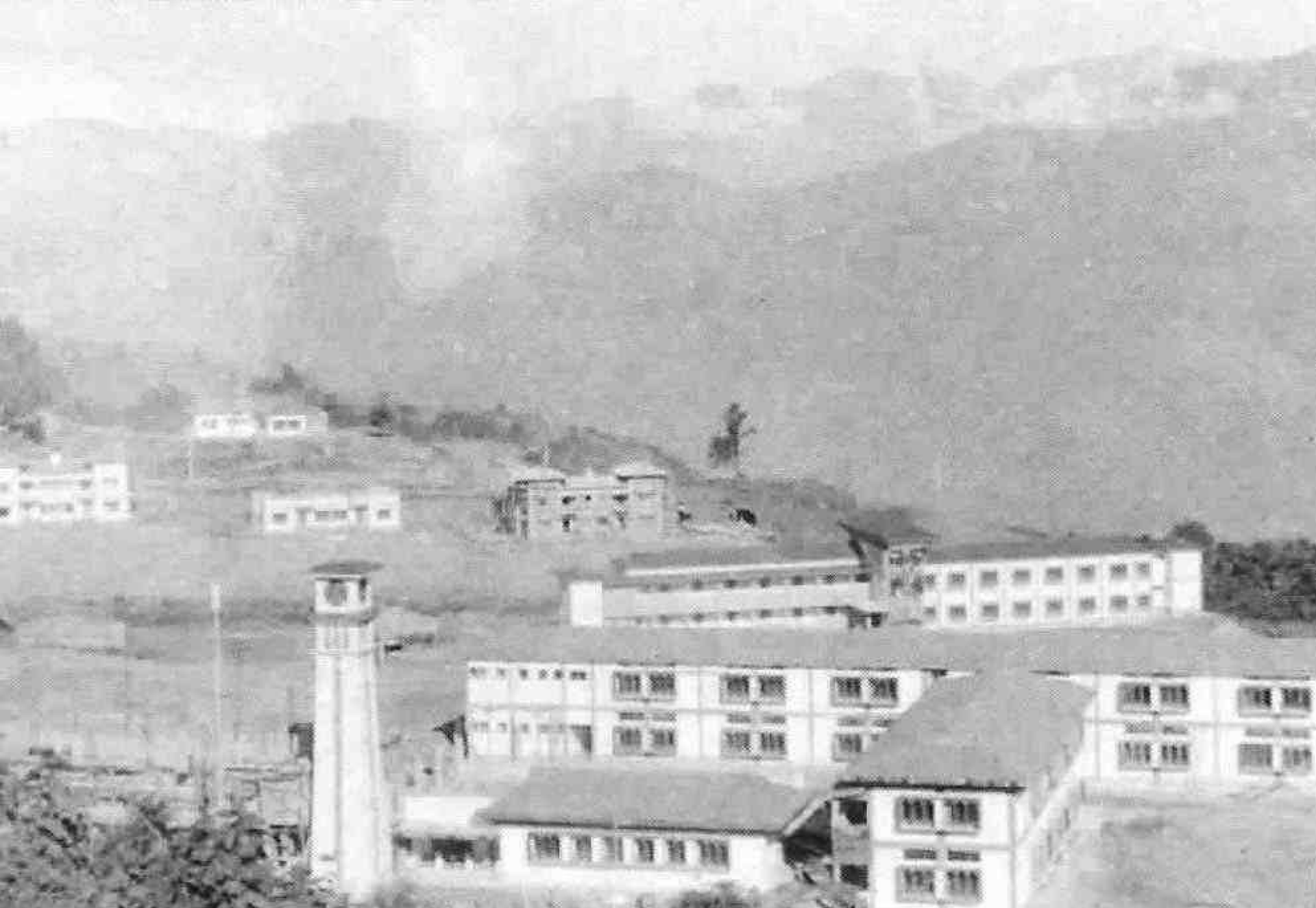


1962



出所：東郷文彦（1965）『ヒマラヤの王国—ブータン—』鹿島研究所出版会。





出所 : Solverson, Henry (1995) *The Jesuit and the Dragon: The Life of Father William Mackay in the Himalayan Kingdom of Bhutan*, Montreal: Robert Davies Publishing.

【拡充期②】（1980年代～）

■ ナショナル・アイデンティティの保護・促進 ⇒ 独自性模索

「国の豊かな文化的・精神的遺産を保護・促進する。また、教育を受けた人々がこれらの遺産から疎外されるのを防ぐ」*

「生徒の中に道徳的価値及び愛国心を育み、三宝（仏・法・僧）の規範（Driglam Choesum）を遵守し、国王と国家に奉仕するブータン市民を育成する」*

■ 教育のブータン化

「環境教育」科（Environmental Studies: EVS）の設置

「価値教育」科（Value Education: VE）の設置

一部科目の教授言語をゾンカに変更

「GNH教育」（Educating for GNH）の導入

出所：Planning Commission, RGoB (1981) *Fifth Five Year Plan 1981-1987 Main Document*, Thimphu: RGoB.

出所：Planning Commission, RGoB (1987) *Sixth Five Year Plan 1987-92*, Thimphu: RGoB.

5カ年計画の変遷

	策定年	名称	実施期間	特徴
インド時代 ↓	1961年	第1次5カ年計画	1961-1966年	インドの5カ年計画のツギハギ インド政府の強い後押しと全面的な財政支援
	1966年	第2次5カ年計画	1966-1971年	
暗中模索時代 ↓	1971年	第3次5カ年計画	1971-1976年	計画委員会設置 ⇒ ブータン政府の主体性の獲得を目指す 国際機関からの援助受入開始
	1976年	第4次5カ年計画	1976-1981年	
独自性推進時代 ↓	1981年	第5次5カ年計画	1981-1987年	目標に「経済的自立の達成」 「地方分権化の促進」強調
	1987年	第6次5カ年計画	1987-1992年	目標に「ナショナル・アイデンティティの保護・促進」
	1991年	第7次5カ年計画	1992-1997年	国際機関寄りの姿勢を明確化 ⇒ 「持続可能性」、「環境と持続可能な開発」強調
	1996年	第8次5カ年計画	1997-2002年	「GNH」の文言登場
GNH時代 ↓	2002年	第9次5カ年計画	2002-2007年	国家開発目標として「GNHの最大化」提示 「主要な柱としての4つの重点領域」提示
	2007年	第10次5カ年計画	2008-2013年	憲法に則し「GNHの最大化・実現」を目指す
	2013年	第11次5カ年計画	2013-2018年	全体目標に「自立し、包括的で環境にやさしい社会経済開発」

















Figure 3-1 Druk Gyalpo Jigme Wangchuck

upbringing involved the tradition of serving his father as an ordinary attendant. He had to work for the royal household like any other servant and wait on the King for long hours every day.

In 1919, when he was only 14 years old, the Crown Prince was appointed Trongsa Droenyer. Since the King, as observed earlier, continued to retain the office of Trongsa Poenlop, his new position made him the chief household officer of the Royal Court. As such, when the Queen passed away in 1922, the full responsibility of overseeing the funeral rites, therefore, fell on the shoulders of the young Jigme Wangchuck. Though grief stricken as he must have been, the Crown Prince successfully coordinated the massive funeral events. The following year, he was installed as Trongsa Poenlop.

Later in the year, the Crown Prince married Azhi Phuentsho Choedon, daughter of Chhume Zhelngo Dasho Jamyang and Azhi Demcho. The family of Chhume Zhelngo traced its direct spiritual as well as hereditary lineage to Thuksye Dawa, the "heart-son" of Tertoen Pema Lingpa. Azhi Demcho was a daughter of Jakar Dzongpoen Chhime Dorji and his wife, Azhi Yeshe Choedon, who as we noted in an earlier chapter, was the granddaughter of Tamzhing Chhoeje Ugyen Phuentsho.

Thus, it was the marriage of Crown Prince Jigme Wangchuck to Azhi Phuentsho Choedon that brought together three lineages of Tertoen Pema Lingpa into the Royal Family of Bhutan - the Dungkar Chhoeje, the Tamzhing Chhoeje and, the Chhume Zhelngo. Inter-marriage between cousins was a widely spread custom in those days, particularly among the nobility. Its practice served to consolidate a family's property and prestige.

The coronation

In 1926, Druk Gyalpo Ugyen Wangchuck died at his retreat near Kuje Lhakhang in Bumthang. While his royal remains still lay-in-state, awaiting an auspicious date for cremation, the new Druk Gyalpo travelled to Punakha for his coronation. On March 14, 1927, barely six months after the passing of his father, Crown Prince Jigme Wangchuck was crowned the second Druk Gyalpo. The coronation ceremony was presided over by the Zhabdrung with the Je Khenpo, the Paro Poenlop and all district dzongpoens of Bhutan in attendance. The British Government was represented by an official delegation led by F.M. Bailey, the Political Officer in Sikkim. The new King of Bhutan was offered the insignia of the Companion of the Indian Empire (C.I.E.) by the British Government.

1989
GENERAL - SYLLABUS
FOR
CLASS - 5



CURRICULUM & TEXTBOOK DEVELOPMENT DIVISION
DEPARTMENT OF EDUCATION
MINISTRY FOR SOCIAL SERVICES
ROYAL GOVERNMENT OF BHUTAN
THIMPHU BHUTAN

LHOTSHAMKHA SYLLABUS

चक्र (2) v

- 1) (क) मेवाती अण्डास विनिवृत्त साधारण विनिवृत्त
प्रकार केवल सुभा, अण्डास वर सुभास
सम्बन्धित।
- (ख) मेवाती अण्डास अण्डास (अण्डास) प्रयोग
के सम्बन्धित।
- (ग) अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास वर
अण्डास व अण्डास अण्डास अण्डास सम्बन्धित।
- (घ) अण्डास अण्डास व अण्डास अण्डास अण्डास
अण्डास अण्डास वर अण्डास अण्डास सम्बन्धित।
- (ङ) अण्डास अण्डास विनिवृत्त वर अण्डास अण्डास
अण्डास व अण्डास अण्डास अण्डास व अण्डास
अण्डास वर सम्बन्धित।
- (च) अण्डास अण्डास विनिवृत्त विनिवृत्त अण्डास
अण्डास वर।
- विनिवृत्त अण्डास अण्डास व अण्डास -
- 1) अण्डास अण्डास (अण्डास)।
- 2) अण्डास अण्डास अण्डास (अण्डास अण्डास अण्डास)
(अ) अण्डास अण्डास (अ) अण्डास अण्डास व
अण्डास अण्डास (अ) अण्डास (अ) अण्डास
3) अण्डास अण्डास अण्डास
4) (क) विनिवृत्त अण्डास (ख) विनिवृत्त अण्डास
(ग) अण्डास अण्डास (घ) अण्डास (ङ) अण्डास
(च) अण्डास अण्डास विनिवृत्त।
- (च) अण्डास अण्डास अण्डास
अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास
अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास
विनिवृत्त अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास
अण्डास।
- (ग) विनिवृत्त अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास
अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास
विनिवृत्त।

1) अण्डास -

- (क) अण्डास अण्डास अण्डास
- (ख) अण्डास अण्डास अण्डास
- (ग) अण्डास अण्डास अण्डास
- (घ) अण्डास अण्डास अण्डास
- (ङ) अण्डास अण्डास अण्डास
- (च) अण्डास अण्डास अण्डास

2) अण्डास -

- (क) अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास
- (ख) अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास
- (ग) अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास
- (घ) अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास
- (ङ) अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास
- (च) अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास अण्डास













ご清聴ありがとうございました。